

2014~2015

会 報

R I 2720地区



# The Hitoyoshi Rotary

人吉ロータリークラブ

通 算 2841回  
2015年4月17日  
第39回例会  
毎週金曜日

## ロータリーに輝きを

Light Up Rotary

2014-2015年度 R I 会長  
ゲイリーC.K. ホアン

会報編集 石蔵尚之委員長

人吉市九日町30・清流山水花 あゆの里 ☎@2171

◀ 例会場

事務局 ▶

清流山水花 あゆの里内 ☎@6665 ☎@6505

[URL] <http://www12.ocn.ne.jp/~hrc/>[E-mail] [hitoyoshi-rc@mocha.ocn.ne.jp](mailto:hitoyoshi-rc@mocha.ocn.ne.jp)

### 4月雑誌月間

点 鐘	鳥井正徳会長
歌 唱	ソングリーダー 安達玄一副委員長 国歌「君が代」 R S「我等の生業」
司会・進行	水野フカラム委員長
来訪者紹介	鳥井正徳会長 株肥後銀行 前人吉支店長 上田一精 様

### 会長の時間

会長 鳥井正徳



4月の半ばを過ぎましたが、全国的に気温が上がり、冬に逆戻りしたような日々が続きます。巨人の原監督はインフルエンザにかかったとのことですが、会員の皆さんはいかがでしょう

うか。

人吉新聞にも掲載していただきましたが、人吉RC奨学金の給付式を無事に終えることができました。ここに至るまでの片岡社会奉仕委員会をはじめとする会員の皆様のご協力に対し心から感謝申し上げます。後ほど片岡社会奉仕委員長から報告がございますのでよろしくお願い致します。

ところで先日の例会に於いて、次年度からロータリー特別月間が大きく変わるということを具体的に申し上げましたが、その中で、新しく3月の特別月間が「水と衛生」月間に替わるとありました。この水と衛生月間は、どういうことを意味する、どういう取り組みをめざしているのか知りたくて世界の水事情について

ちょっと調べてみましたので御存知と思います  
が述べてみたいと思います。

2012年のロータリーの友に「水問題に取り組む」という特集記事が掲載され、その内容を要約してお知らせしたいと思います。

・水と衛生の問題は「水が人々の生活にどれほど大きな影響を与えているのかを考えると、世界の最優先課題とするのは理にかなっている。世界中で5才未満の子どもを最も苦しめているのはエイズやマラリアではなく水の問題である。食糧支援の前に水の支援が充実すると、エイズ患者の改善、識字率の向上をはじめ、下痢で学校を欠席する子どもの数も減り、安心して学校に通える。

・世界の人口70億人のうち26億人(37%)は、基本的な衛生設備を利用できていない。14億人(20%)が1日1ドル25セント以下で生活している。従って、高価なトイレなどを提供しても、トイレとして利用されることは少ない。従って屋外排泄がなくなることはない。途上国の屋外排泄率は23%に達している。

・インドなど発展途上国の都市部には、水道施設はあるものの経済的に余裕のある人は水道水は使わずペットボトルを持ち歩く、ペットボトルを買うことができない何百万人の人が使う水道水は検査すれば大腸菌による汚染を確認できる水は安全ではなく命を奪っているともあります。

元々ロータリーの重点目標の1つに「水と衛生」は取り上げられてきたところですが、ロータリーがポリオ撲滅のために行ってきた働きかけを水と衛生でもぜひ実施し、それに答えて途上国の政府や地域社会がこれに答えて力を入れることを期待したいともありました。水と衛生のプロジェクトで最も難しいのは持続可能性といわれていますが、国際ロータリーがポリオ撲滅後に取り組む事業は、水と衛生の問題であるのではないかと感じたところでございます。

## 出席率報告

委員長 村山能史

本日の出席率			
会 員 数	63名	81.03%	
出席免除	5名	4 / 3 出席率	86.21%
欠 席 者 数	11名	補 填 数	8名
出席者数	47名	修正出席率	100%

\*届け出欠席 有村・竹長・伊久美・中村・大野・本田・山田  
山口・田上・堀川・堤正

\*出席免除会員(b) 増田, 愛甲, 高山, 丸尾, 釜田

\*メイクアップ

地区大会; 安達・本田・井手・伊久美・板井・片岡・北・小林清

## 会務報告

### 【社会奉仕委員会】

委員長 片岡啓一



4月9日・13日に人吉高校、球磨工業高校へ、鳥井会長、有馬幹事、水野副幹事、塚本副委員長と一緒に、人吉ロータリークラブ奨学金の給付式に行ってまいりました。

高校の校長室において、本年度の奨学金受給者の人吉高校4名、球磨工業高校2名とそれぞれのご父兄に集まいただき、「人吉ロータリークラブ奨学金は、ロータリークラブ会員が長年にわたり奉仕活動のために拠出し合い集められた貴重な浄財であり、厳しい現実には負けず一生懸命頑張っている学生さんに夢と希望の実現達成に役立ててもらいたいという趣旨で始めた奨学金制度です」と説明をし、3か月分の「奨学金」と将来にわたり本人の誇りと記念になるよう「ロータリーの盾」を直接手渡しました。

鳥井会長からも「この人吉ロータリークラブ奨学金を受給することを誇りにし、将来の夢の実現に是非役立ててもらいたい」と励ましの言葉があり、生徒代表からは「私たちの将来のために有効に使わせていただきロータリークラブの皆さんのご期待に添えるようがんばります」と心強い言葉があり、ご父兄代表からお礼のあいさつ、学校長からの謝辞をいただき、給付式を終了しました。

その後、学校長や奨学金の担当の先生方と懇談をしてきましたが、今回の奨学金については、他の奨学金と比べて返済しなくてよいという趣旨が大変好評で、応募対象者も多く、受給者枠がもう少し多ければ、との希望もありました。

今回選任された対象学生は、学業面も優秀で部活等でも頑張ってる学生ばかりということで、私どもも大変たのもしく感じました。夏休みには、奨学金受給学生を例会に案内し、みなさんと顔を合わせる機会を作りたいと計画しておりますので、楽しみにしておいてください。

本日はパスト会長卓話に、武末パスト会長に再びお願いしております。よろしくようお願い申し上げます。又、上田一精会員が転勤で退会されました。本日も挨拶をいただきます。

## 幹事報告

幹事 有馬宏昭



### 【理事会の承認事項】

上田一精会員の交代会員、安方 晃氏の承認

### 【連絡事項】

①国際ロータリー第2720地区2015～2016年度大庭佳美ブライダル推進委員長からブライダル推進委員会設立のご案内と協力依頼が届いています。会員には、独身者の紹介、会長及び社会奉仕委員長には、ブライダル担当委員の選任ガバナー事務所への登録依頼が届いています。

→鳥井会長へ

②国際ロータリー第2720地区2015～2016年度大庭佳美ブライダル推進委員長から2015～2016年度2720地区ブライダル推進委員会担当者会議開催のご案内が届いています。

日時：6月27日(土)14:00～16:00 (受付9:00)

場所：テトリア熊本銀染コアビル地下会議室

→鳥井会長へ

③中津中央ロータリークラブから40周年記念祝賀会の案内が届いています。

日時：平成27年5月30日(土)午後4時30分

場所：グランプラザ中津ホテル

→鳥井会長へ

### 【回覧物】

人吉ロータアクトクラブ週報

### 【例会変更及び取り止め】

八代南RC5/5→定款第6条第1節に基づき取り止め

〃 5/12→「懐良親王陵清掃」の為

11:30～清掃作業12:30～例会

場所：懐良親王陵

### 【来訪者挨拶】



4月10日付けで退会されました(株)肥後銀行 前人吉支店長の上田一精氏より退会挨拶をいただきました。



そこで、最近マスコミ等で話題になっている「子供の貧困」について少しお話しをしたいと思います。厚生労働省によると、子どもの貧困率は、おととしは16.3%となり、過去最悪を更新しました。この16.3%という数字ですが、国民の平均的な世帯所得300数十万円の半分に満たない世帯で暮らしている17歳以下の子どもが全国で300万人あまり、6人1人の割合であることを示しています。数字ではイメージが湧かないかもしれませんが、貧困世帯にいる子どもたちは、子どもなら、あって当然と思われているモノが無かったり、色々な経験をする機会を奪われたりして様々な不利益を受けています。

例えば、いま学校では、給食費や学用品代、それに、修学旅行費を支払うことができない家庭が増えています。そうした費用を市町村が肩代わりして支給する「就学援助」を受けている小・中学生は155万人（平成24年度）に増え、15年で2倍になりました。また、文部科学省が去年、小・中学生を対象に行った全国学力テストの結果を分析したところ、親の所得が低い子どもに比べて、所得が高く、学習塾など学校以外の教育費の支出が多い家庭の子どもほど、成績が良いことが明らかになりました。親の収入によって子どもの学力にも差が出ているのです。こうした子どもの貧困の状態が深刻なのが「ひとり親世帯」です。働いて得られる年収が、平均で180万円ほどしかない母子世帯など、ひとり親世帯では、貧困率が54.6%と半数を超え、2人に1人の子どもが貧困状態にあります。これは、先進国の中では最悪の水準です。ひとり親世帯が増えていることに加えて、賃金が低い「非正規労働者」が増え、はたらく親の所得が減っていることが子どもの貧困率を押し上げています。こうした貧困世帯の子どもは、塾に通いたくても、通えないなど学習面で不利な状況に置かれ、学力不足で高校進学を諦める生徒や、進学しても授業について行けずに中退する生徒が数多くいます。貧困が学力の低下をもたらし、そのことが進学や就職にも不利に働いて、大人になったとき、生まれ育った家庭と同じように経済的に困窮する。そうした親から子への貧困の連鎖を断ち切るため、国の責務で対策を進めようと「子どもの貧困対策法」がつけられました。法律ができたことには大きな意義があると思います。しかしながら法律の大綱で示された対策の中身をみますと、これでは、まだまだ不十分だと言われているようです。

子どもを育てる環境は家庭の経済状況によって大きく左右され、親の収入は子どもの成長に影響します。貧しい家庭に育つ子どもは、学力、健康、家庭環境、非行、虐待などさまざまな面で、そうでない子どもに比べて不利な立場にあります。

そういった社会的背景を認識した上で、我々の

「人吉ロータリークラブ奨学金制度」が高校生の夢の実現に少しでも役に立ち、奨学金を有効に使ってもらうことを願っております。

#### 【雑誌委員会】



#### ロータリーの友4月号の紹介

紹介者 戸高克彦会員

まず横組3ページには今月は雑誌月間という事でR I会長のメッセージが載っています。ロータリーの雑誌を分かち合おうの題で、現代はネット社会ではあるが1911年以降一度も休刊することなく出版されてきた雑誌は、ロータリーの言葉を広めるのに最も良い方法の一つであり、これからは必要であるとされています。

8ページ・9ページはロータリー雑誌の仲間たちで各国の雑誌の紹介がされています。公式雑誌「THE ROTARIAN」は50万部発行されているようです。ポーランド・ウクライナ・ペラルーシは2000部と最も少なく、日本は95,200部多く発行されている方です。表紙も様々でページ数も様々ですが、中には120ページと平均の2倍のページ数のものもありました。

10ページ～14ページ、ロータリーの友に関してで、ロータリーの友委員会委員長、京都東RC橋本氏と地区代表委員との対談の内容が載っております。委員会の方々のご苦勞が伝わってきます。

18ページからはロータリーデーで各クラブの活動が載っています。

28ページからは「見守り育てる」で30ページの（納豆の糸はどれだけ伸びるのか？）は前橋ロータリークラブ、西、東、北、南、中央の6クラブで共催された「まえばし教育の日」事業の「まえばし学校フェスタ」での小学生の理科の研究です。番組名は忘れましたが、最近テレビでも紹介されていたと思います。

続きまして縦組です。

4ページ～8ページは「日本の再生」地域の役割と文化芸術の力と題され、前文化庁長官、近藤氏の記事が載っています。日本の再生には一人一人の感性を磨く事が大事でそのヒントが文化芸術や伝統的な思想・文化にあるという事を伝えられて、日本の再生に対しての視点が読んでいて面白く感じました。

18ページの卓話の泉では100年続く企業の秘密という事で、日本経済大学近藤教授によりますと、創業100年以上の企業は5万社以上で、200年以上の企業は4,000社あるそうです。日本は2位のドイツを大きく離し1位だそうです。しかし、100年から200年の間に9割以上の企業がなくなっている事も少し驚きです。

22ページからは、ロータリーネットワークで子供たちのスポーツイベントから地域の文化交流など幅広い活動が載っています。

早足でしたのでご紹介できなかったページもございますが、以上でロータリーの友の紹介を終わります。

## 【内部卓話】



「ロータリー活動に支障を来すため手術を決意す」

武末憲一会員

病名：閉塞性動脈硬化症

人吉医療センター循環器内科部長

中村伸一ドクター

第1回目の手術（心臓内動脈硬化症）

入院：2月27日（金曜日、休診）

28日（土曜日、休診）

退院：3月1日（日曜日）

第2回目の手術 本命右足腿動脈硬化症

入院：3月20日（金曜日、休診）

21日（土曜日、祭日）

退院：3月22日（日曜日）

というスケジュールで手術（治療）を行いました。

平成15年8月22日（12年前）脳内出血  
（ビール飲み足らなくて遂に出血）

3日間絶対安静・ほぼ1ヶ月の入院、

その時に上村院長（当時の総合病院院長）曰く

「後、何年生きたいですか？」の質問に

思ったこともなかったもので、ハテハテ「後、1

0年位は生きたいですね・・・」と

退院後、この例会で『夏のセレナーデ 脳内出血大サービス』・・というテーマで、何故？倒れたのか？ということで卓話をさせていただきました。

総合病院に担ぎ込まれ、救急診療がはじまるや、「インスリンが一滴も出てないですよ。」とドクターの言葉で糖尿病という病名をその時もらい、インスリン投与の生活に入りました。以後堤修会員の弟であられる同級生の堤悦郎ドクターにお世話になっておりますが、堤ドクターより、人吉医療センターで脳と心臓の精密検査を再三勧められていましたが、別段に体の異常を感じることはなかったもので、毎年の歯科医師会の基本健康診断だけですませていたわけです。

健康診断の結果は糖尿病以外には他に異常がなかったという安心感もあったわけですが、ただ数年前から右足の脹脛（ふくらはぎ）が、歩くと腫れたり、痛みがきたり、つったりと少しずつ歩行が辛い状態になってきておりました。12月、いつもの定期的診察の折、主治医の堤先生が「今日これから、医療センターの外科に行くように」と

同センターに電話され緊急患者としての段取りを計って頂き、紹介状をもって、総合病院に着いたのが午前11時30分を少し回ったくらいでした。心積もりのないままの思いがけないことでした。即、診てもらえるよう段取りをとっているとは言っても、やはりそううまくいくものではなく、結局午後の受付になったようでした。

待ちくたびれた頃やっと名前を呼ばれ、それから言われるままの検査に次々回され、順番を踏み、そこそこでしっかり待ち時間もあり、やっと診察に辿り着けたものの、その診察は思いの他長時間となり、一応の全てが終わったのが、午後6時30分、外は暗くなっていました。病院内には患者さんは三々五々、既に受付も終了しており、夜間警備員の詰め所のような所で会計を済ませ、帰路に着いたわけです。

精密検査の結果は右足大動脈の血管が詰まっており脹脛の痛みは血流が閉塞していることによる痛みとのことでした。以後は少し運動することにより周囲にある細い血管の血流が少しずつ流れてくるようになるでしょうとのこと。

その日から新たに“血液サラサラ”の飲み薬がはじまりました。下川ドクターの説明では、運動は一日30分を週3回程度ということでした。運動はなかなか思うに任せませんが、薬の効用は驚くほどで、脹脛の痛みはすっかりなくなりました。これで安心、暫くはこうして経過をみるものと思っていたところが、次に堤病院の定期健診に行ったところ、「一度、循環器科に診てもらおうように、今丁度、良い先生が来ているから」と、また紹介状を持って人吉医療センターに行くことになりました。やはり同じように待たされ、同じような経過を辿り、今度は心電図、MRI、脳神経など一通りの各検査を終え主治医となる中村伸一ドクターの説明がありました。

「右足は勿論だが、その前に心臓のほうの閉塞が大きいのでまずは心臓のカテーテル治療を行います。心臓には2箇所にもステントを入れます。その時に足に造影剤を入れて再度足の状態を調べます。任せてください」、真剣なそして力強いドクターの説明でした。さらに患者サイドの立場を重要視される様子に安心して中村ドクターにお任せしようとの気持ちになったわけです。

手術日は2月、当院の患者さんになるべく迷惑をかけない日程をと、中村ドクターもその点を充分周知していただき、27日（金曜日）に決まりました。それからというものの心臓手術のことが頭から離れません。足の脹脛の痛みから検査に至り、その結果、思いがけない心臓手術をすることになったわけですが、自分自身としては心臓の痛みとか動悸とかの自覚症状が全くなにもないのに手術をしなければならないということが腑に落ちない思いではありました。

丁度手術日を前にした2週間ほど前の夕食後、

当院の鶴田さん（アクトOB）から電話がありました。元ローターアクト地区ガバナーの豊永君が亡くなったとの訃報でした。翌日が通夜でしたが、何と言ってもまだ若い、それに2ヶ月前に当院に来た時は普通の元気さで何ら変わった様子がなく、怪訝な思いで通夜に出向いた訳です。そこで彼の終を聞いたわけですが、何ともうすぐ私がしようとしている心臓の手術ではありませんか、ステントを入れ、退院して4日目だったとのこと。豊永君とその御家族の痛む思いもさることながら、同じ手術が直面している私の驚きはそれは尋常ではありませんでした。

その日から何とも心の落ち着かない日々が手術当日まで続き、会う人ごとに熊本の病院に行ったほうがいいんじゃないですか？と言われるし、人吉の医療センターで大丈夫かと心から心配してと言われるし、心穏やかでない日々でした。豊永君のことは大変ショックでしたが、「任せてください」との主治医の中村ドクターへ託す思いは私としては強いものがありました。

手術当日先ず最初の信号が『赤』、右折して人吉橋を渡り次の信号で左折するところが、家内がうっかり真っ直ぐ行ってしまった。やむなく永国寺まで行くと再び『赤』、不穏な空気の車の中、病院の裏から入ることになりました。9時に受付を済ませ、病室に通されると、いよいよ点滴が始まり、あとは敷かれたレールに乗せられるままでことが進みだし、午後一番の手術に入りました。右腕に点滴ですから、カテーテルは左手首から入れることになりました。長さ2センチ巾は髪の毛位だそうです。局所麻酔でしたので、治療の経過はすべて見えるし、ドクターたちの会話も聞こえる中で手術でした。1時間半位だったでしょうか、その間に当初の予定通り足の造影剤を入れられたわけです。手術そのものは何の痛みも、苦痛も無く、手術が終わり部屋に帰ったら、遅目の昼食でした。

術後の説明では、映像を見せてもらいながら、術前の詰まっている状況、術経過のステントが入るときの状況、そうして術後の一気に血液が血管内を流れ出す映像に感銘しました。右足造影剤の結果の話が続いてなされ、右足の腿の部分の詰まりでなるべく早くしたほうが良いとの指示でした。本命だった足の手術は中村ドクターの提案で3月20日に決まりました。20日というのは春分の日の前日で連休を利用すると、病院を休日にするのが1日だけで済むでしょうとのこと、こちらの状況を充分察知されての対応に感謝の思いでした。3月20日と言いますとロータリーの地区大会前日で翌日からは会員の皆様は大分行きでしたが、私はそれには失礼して手術に入りました。

当日の出発の最初の信号はやはり『赤』で、前回同様次の信号左折を、家内はまた左折をうっか

り忘れ通り過ぎ永国寺経由になりましたが、そこらは『青』でした。またも裏口入院です。今回は2回目ですので要領もわかり病室に通されても落ち着いたものでした。

先ずは手術着に着替え点滴が始まります。前回と違うのが今回は心臓でしたから手首からの挿入、今回は足の大腿部ですから足の付け根からの挿入ということで、丸一日自由が利かない状態になるとのことでした。自由が利かないということは先ず一番にトイレの問題があるのですが、看護師さんたちは慣れたもので当然のごとくに尿道に管を通し、袋をベッドにさげるのですが、初めての違和感に病人になってしまったなあと感じました。つぎには、陰部の毛をそられるのですが、それも看護師さんは手馴れたもので電気カミソリでサッと済まされます。予定の時間は救急患者が入ったとのことで随分遅れて午後3時頃になりました。スッポンポンのまま手術着一枚で左には尿の袋、右は点滴を付けさせられ車椅子で“手術室へイザ出陣”。

手術室では4人目の手術というのに中村ドクターは、すこぶる元気で両手に白いゴム手袋をはめて待っておられました。前回同様、心臓カテーテル手術と同様に今度は租軽侮（大腿部付け根）に局所麻酔をしたのち、針を刺して管（カテーテル）を血管内に入れ、目標の血管に達したら、先端に風船がついた治療用のカテーテルを狭窄部位や閉塞部に通し、風船を膨らませて病変部を拡張し、必要に応じてステントと呼ばれる金属の網状の筒を留置し血管の拡張を保ち、治療時間は2時間強かかり、病室に連れてかえされたわけですが、実は手術よりもそれからの夜中から朝までの時間の苦痛が大変でした。メスを入れた大きい血管の止血の為、止血の部位を中心に大腿部から背中、腹部にかけてしっかりと太いベルトで幾重かに結構なきつさで巻きつけてある。体はびくりとも動かしていけないということで、横に向くことも膝頭を立てることも相成らず、べられたベルトの痛さには閉口しました。

明るく日の朝7時位でしたでしょうか、中村医師が来られ全てのベルトがはずされ、トイレの自由も利くようになりました。が唯トイレが通常に出来るようになるには2～3日要しました。術後は大腿部の血流も即流れ出し、軽快になった気がします。これでロータリー活動が出来そうですので以前同様宜しくお願いします。

【ニコニコ箱委員会】 委員長 平田フク

・鳥井会長 「人吉ロータリー奨学金」の給付が終わり、いよいよスタートしました。ご協力に感謝いたします。武末パスト会長、生生しく滅多に聞けない卓話有りがとうございました。

・原田会員 誕生祝いありがとうございました。

武末パスト会長楽しい卓話有り難うございました。

・友永会員 早退させて頂きます。

### 【米山記念奨学委員会】

・伊久美会員 いつもの寄附を致します。

点 鐘 鳥井正徳会長

### 『ロータリーにNO はない』

先輩会員が、「ロータリーにNOはない」と言っているのを聞いたことがありますか。

ロータリーの中で、何かの役職を頼みたい時、奉仕活動を手伝ってもらう時など、頼みごとを断られると、「ロータリーにNOはない」という、このセリフが飛び出してくることがあります。

「モノを頼んでおきながら、なんて失礼な言い方なんだろう」とか「全く強引な人だ」なんて腹を立てたりしないでください。その人は、あなたを見込んで、あなたの能力を信じて頼んでいるのですから。

「自分たちがロータリーに入ったころは、『ロータリーにNOはない』と言われて断わることなんかできなかつたのに、最近の人たちは平気で断わってくる」と、言っている年配の会員を時々見かけます。

クラブ会長や幹事、委員長などの役職に就くと、いろいろな仕事が舞い込んでくるので、そんなことはやりたくないと思われている方も多かもしれません。せっかくの休みをつぶして奉仕活動に付き合うのは、ごめんだと思われている方も多かもしれません。

しかし、これらのことは、あなたに断られたからやめればいいというものではないのです。あなたが断れば、必ず別の誰かがやらなくてはならなくなるのです。

そして大抵の場合、それはいつも同じ人に、つまり頼まれごとを断ることのできない人に回ってくることになります。あなたも仕事が忙しいかもしれませんが、その人も同じように忙しいことでしょう。

ロータリーで、「忙しい」というのは、仕事を断る理由にはなりません。忙しい人がいっぱいいるからです。「忙しい時間を上手にコントロールして活動の時間をつくることも大切。それも勉強のうち」という言葉も、ロータリーではよく耳にします。

うまく断ることができたら、あなたは「良かった」と思うかもしれませんが、実は、ロータリーでの大きなチャンスを逃してしまっているかもしれません。

入会したばかりのころは、ほとんど知った人が

いなくて、戸惑うことばかりだと思います。誰に聞いたらいいかすらわからないでしょう。でも、共に活動することにより、先輩会員はあなたのことを覚えてくれます。共に活動することにより、あなたのことを仲間だと思ってくれるでしょう。そうなれば、クラブにあなたの居場所ができていきます。共に活動すれば、例会の始まる前や終わった後で、先輩たちの仕事や趣味の話、さまざまなロータリーの話の聞くことができるようになるでしょう。あなたがクラブでしてみたい活動について話をする機会に恵まれるでしょう。

「NO」と言わずにロータリーの活動をしている人たちは、ロータリーの本当の楽しさを知っているのかもしれませんが。ロータリーで仲間をつくることの喜びを体験しているのかもしれませんが。

「ロータリーにNOはない」と言っている先輩会員は、「NO」を言わなかったおかげで、何か良いことがあったという経験の持ち主で、あなたにもその経験をしてほしいと願っているのかもしれませんが。

入会したものの、ロータリーのことがよくわからない、ロータリーにうまくなじめないと思っているあなたは、「忙しいからできない」という言葉をのみ込んで、自ら率先して仕事を引き受けてみてはいかがでしょうか。

編集長 二神典子

はじめる一歩『ロータリーの友』から(2012年8月号)

### \*\*\*\*\* 4・5月例会予定 \*\*\*\*\*

4/24(金) 優良職員表彰式

5/1 (金) 例会取止め

5/8 (金) 地域発展功労者表彰

5/15(金) 地区研修協議会報告①

5/22(金) クラブ創立記念例会  
創立記念卓話

5/29(金) 地区研修協議会報告②

### \*\*\*\*\* 5月の行事 \*\*\*\*\*

5/4(月) クリーン人吉運動早朝清掃

5/10(日) 地区研修協議会(熊本市)

5/13(水) 次年度会合

5/14(木) 人吉RAC第1例会(ひまわり亭)  
次年度G補佐・会長・幹事会(芦北)

5/18(月) 次年度委員会合(石亭の館)

5/21(木) 次年度委員会合(ひまわり亭)

5/24(日)~25(月) ゴルフ愛好会(宮崎)

5/28(木) 人吉RAC第2例会(ひまわり亭)

内容については幹事もしくは担当委員会へおたずねください。